

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

行動する環境アドバイザーの会報

グリーンニュース 第54号



菜の花祭り（高崎市・鼻高展望花の丘）

高崎駅から西に約6km、鼻高町南部にありその名の通り、赤城・榛名・妙義の上毛三山を始め武尊、浅間、御荷鉾、荒船と言った特徴のある上州の名山、そして遥かに志賀や草津の山、そして八ヶ岳まで望む事ができます。開発の経緯は8頁をご覧ください。

恒例の春の菜の花祭りが今年は4/13～5/6まで開催されます。

- P1 表紙
- P2 環境政策課より、
- P3 須永代表より、地域トピックス(前橋)
- P4 地域トピックス(高崎)
- P5 地域トピックス(みどり桐生、安中)
- P6 専門部会(ごみ、自然環境)
- P7 専門部会(温暖化・エネルギー)
- P8 取材記事(鼻高展望花の丘)

発行年月日 平成25年3月25日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹

群馬県環境アドバイザーの動き (平成 25 年 3 月 20 日現在)

前年度(第 8 期)の県環境アドバイザーは 327 名の登録をして頂いておりました。第 9 期(登録期間:平成 24 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)への更新登録者は 203 名でした、今期の新規登録者を含め平成 25 年 3 月 20 日現在 254 名です。 前期同様、各地で活躍されています。

※ サポセンブログ <http://saposen.kazelog.jp/> から
グリーンニュース(pdf)がダウンロードできます。

サポセンブログを携帯、スマホで見よう
スマートフォンの設定で、グリーンニュースも読めるよ



「群馬県環境情報サイト E C O ぐんま、御存知ですか？」

環境政策課 松村 賢一

環境アドバイザーの皆様は、「群馬県環境情報サイト E C O ぐんま」を御覧になったことはありますか？第 9 期アドバイザー地区説明会の席でも紹介させていただきましたが、平成 24 年の 4 月より群馬県の環境行政情報に特化したインターネットサイトがオープンしました。現在、情報を随時更新しており、県の環境行政を知る新たなツールになるサイトです。

URL 入力やキーワード検索でもすぐに見つかりますが、群馬県のホームページのトップから「暮らし・環境」をクリックすると、すぐ右側にバナーがありますので、そちらをたどっていただくことでも閲覧可能です。



環境活動推進係、環境サポートセンターの業務では、「動く環境教室エコムーブ号」が紹介されています。実際の動く環境教室の様子、扱っているテーマを知ることができます。また、授業などで活用可能な「環境学習資料 (全 8 種)」もあります。配布や取組にお手伝いいただいた「ストップ温暖化！県民アクション」のページをたどることもできます。来庁しないと手に入れない各種環境関連のデータも掲載されています。

将来的には、アドバイザーの皆様へ、伝えたい情報を手早く、目で見てもよく分かるツールとして活用できれば…と考えています。是非一度 E C O ぐんまを御覧ください。

群馬県環境情報サイト E C O ぐんま
ホームページ URL
<http://www.ecogunma.jp/>

家庭でストップ温暖化

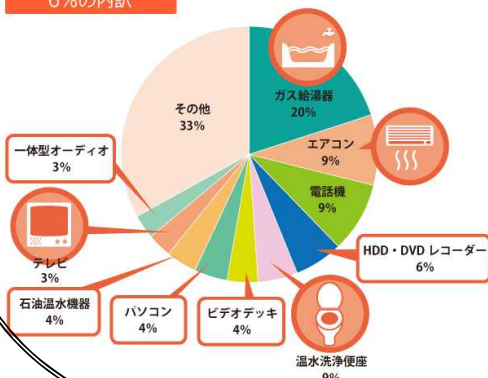
省エネ・節電しよう

家庭内で発生する二酸化炭素は、省エネすることによって削減することができます。賢く省エネして、無理のない範囲で二酸化炭素の削減を進めていきましょう。

家庭の待機電力を減らそう

家庭 1 世帯あたりの消費電力のうち、約 6% が家電製品の待機電力による消費 (※) となっています。使用しない家電製品のコンセントプラグを抜くことで、すぐに省エネができます。

6%の内訳



群馬県環境アドバイザーに若い力を

第9期も、はや1年を過ぎようとしています。

群馬県環境アドバイザーの皆様におかれましては、日々の活動について本当に御苦労さまです。あらためて日頃の活動に感謝致します。

私ごとではありますが、昨年末と今年初頭に人生初の入院・手術を経験し、思うように皆様のサポートができなかったことをお詫び申し上げます。

来年度のことについて少し触れておきたいと思います。当連絡協議会も発足以来約16年ということになっておりますが、残念なことに若いメンバーの加入は少なく高齢化が進んでおります。勿論、ベテランによる知見や技術などは継承していくべきことではありますが、それを引き継ぐ世代がいなくてはなりません。

従って皆様のお知り合いの中で、若い世代（高校生や大学生なども良いかと思えます）を是非環境アドバイザーの仲間としてお誘い頂きたいと思えます。

また各分科会を考えますと、それぞれが県の環境関係各課とのコミュニケーションが図れ、より一体となった活動に繋がるようにして参りたいと存じます。自然環境や廃棄物、エネルギーや水など、県の専門部署とのミーティングなどにおいて、最新の動向を伺うとともに相互の的確なサポートとなればと思えます。

最後に、折角環境アドバイザーとしてご登録を頂いた皆様にお願ひ致します。お忙しい状況であるとは思いますが、登録された部会の会合へのご出席を是非ともお願ひ致します。出席することによって、活動しているメンバーと交流を深めて下さい。きっと環境問題に対する各人の次のステップアップとなることと思えます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

(代表 須永 徹)

地域トピックス 前橋

前橋地区会報告

前橋地区の会員は多数在籍しており、皆様それぞれ地域に密着した活動を為されておりますが、地区全体として何かを行うことはこれまでありませんでした。

前代表の鈴木克彬氏の呼びかけで、地区の会員間の情報交換と活動報告の場を持ちたいとして昨年11月に発足したばかりです。

第1回の会議には参加者が10名にも満たず前途多難の出発でした。しかし前橋市の担当者との意見交換、参加者の日頃の活動についての報告等があり有意義な時間を過ごせたと思っております。

その席で地区の代表にと私が選ばれ、今後2~3カ月に1回皆様に声をかけ情報の交換や会員間の親睦を深めていければと考えておりますので皆様の参加と御協力をよろしくお願ひします。

(前橋地区会会長 宗 義彦)



地域トピックス 高崎

環境アドバイザー・高崎地区会の紹介

平成13年4月に発足して今年で12年経つ。高崎市を中心に、環境アドバイザーに登録した方を中心に現在43名が在籍し年会費は1000円で高崎市総合福祉センター3階のボランティア作業室を会議場としている。

年間行事計画に基づき、井野川の清掃と植栽をし地域環境学習事業を実施している。

市役所、地域のボランティア団体との会議、地域のボランティア活動への参加、等を中心に月に2回ほどの活動をしている。

(会の目的) 本会は、環境保全活動ボランティアとして以下の活動を相互に連携しながら推進する。

1. 環境情報の普及や環境保全意識高揚のための啓発活動を行う。
2. 環境保全に関連する市民団体や地域組織との協力。
3. 個々独自に活動している市民団体のパイプ役として、行政との連絡をとりながら、実践活動の拡大及び新たな活動の推進を図る。
4. 地域のリーダーとしての資質向上のための研鑽に努める。

以下は24年度の活動内容です。

[I] 行政、他団体、地域との連携

- ・高崎ボランティアグループ連協 関連 (高崎市NPO・ボランティアフェスティバル)
- ・たかさき地球市民環境会議 関連 (たかさき地球市民の日2011)
- ・市民公益団体交流会
- ・井野川清掃ボランティア (中尾中生徒と)

[II] 井野川の浄化活動 (花とみどりのクリーン大作戦) (花のゆりかごプロジェクト) も含む。

- ・河川敷草刈り、植栽。・ごみ収集

[III] 環境教育・講座・調査活動

- ・エコムーブ号での動く環境教育 (高崎市内小、中学校へ)

- ・地域環境学習推進事業 (井野川の水棲生物 観察会) (講演会・生活排水処理と現状)

[IV] 会員連携推進

- ・拡大会議、3役会議。井野川エコウォーク。観音山・山桜ウォーク。懇親会、暑気払い、忘年会



「2012. 4. 15 観音山丘陵・山桜ウォーク」



「2012. 7. 15 井野川での水生生物調査」

(高崎地区会会長 原田 邦昭)

地域トピックス みどり桐生地区

九輪草の植付けに参加して

平成24年4月中旬に前橋公園に環境アドバイザーのメンバー20人で参加しました。

大間々町の村田氏の提供の九輪草の苗を50本の植え付けと書いていたので全部で100本を植える事でした。

根付いた頃に水が不足すると困るので村田氏と友部氏が二人で数十回水やりに行ってくれたお陰で花は良く咲いてくれて良かったです。後日写真で見せて戴きました。お二人に感謝です。大変うれしく思いました。

今年も出来れば、又参加したいです。

そしてその帰り道、赤城山の利平茶屋に昨年と同じメンバーで黒土も用意し九輪草の苗350本を植えて帰って来ました。

今年で三年目になりますが約一千本も植えた事になります。育成率はあまり良くなく約1/3位です。それでもガンバって植えます。

アドバイザーの皆様も時間を作って五月下旬にぜひお出掛け下さいませように。私は30年位山歩きをしており日光の九輪草を観に行った事があります。それは実に見事です。日光市の発表では約五万本あるそうです。八丁出島の畔にあります。私達も日光市に追い付くようにがんばりたいと思います。

この花を沢山、沢山、植付けしたいと思います。 (みどり桐生地区 石原 聖平)



「九輪草の花」

地域トピックス 安中地区

安中地区連絡会の活動紹介

安中市在住の環境アドバイザーは現在20人います。「安中地区連絡会」を継続的に開催し、共通テーマの討議、市との環境懇談会の開催、実践活動を行ったりしています。

「安中地区連絡会」は、今から8年前の平成17年の2月に有志で立ち上げました。会費はなし。代表は置かず、2年毎に互選で決める幹事4人で運営、地域世話人が会合やイベントの出欠を確認しています。

具体的には下記の取り組みを行っています。25年度も同様の取り組みを行う予定です。

(1) 定例会の開催：2か月に1回（各回5～10人出席）

- ① 環境アドバイザー連絡協議会全体の状況、各自の取り組み報告等情報交換
- ② 一般ごみの減量、リサイクル率の向上、市との環境懇談会等共通テーマの討議

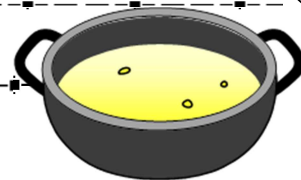
(2) 安中市との環境懇談会の開催：年4回（アドバイザー12人前後、市5人前後出席）

- ① 節電・省エネの取り組みについて：市の取り組みと市民への啓発について
- ② 一般ごみの減量、古紙回収等リサイクル率の向上について他

(3) 市のイベント（福祉ふれあいまつり）に出展し、市民に球環境問題取り組みの啓発、行動を呼びかけ：毎年9月第3日曜日（8人前後出席）

(安中地区連絡会 幹事 吉澤 敏則)

専門部会より



ごみ部会

BDFで発電を

ごみ部会では県庁昭和庁舎に於いて、去る2月15日に恒例の「ごみ減量事例発表会」を実施しました。上毛新聞と南牧ケーブルテレビの取材の中、定員50名のところ47名の参加があり、内11名は行政の関係者でした。ごみ部会としては、群馬県の後援もいただき行政との協働と言う面でも、まずまずの成果があったと考えています。参加いただいた皆様、協力いただいた皆様には、紙面を借り、改めて感謝申し上げます。

さて今回は、廃食用油のリサイクル活動をテーマとして事例発表を実施しました。家庭用てんぷらなどの廃食用油の多くが燃えるごみとして焼却される中で、ただ焼却してしまうのは、いかにも「もったいない」のではないか？リサイクルし、BDF（燃料資源）として活用できれば温暖化防止や3Rの循環型社会に近づくことにもなる訳です。

前橋市大手町3丁目の熱心な地域活動や四季の住まい株式会社の独自の企業活動、富岡市の市民密着型行政には何か感ずるものがありました。なかでもNPO法人環境リサイクルサポートの言うように、このBDFを自動車燃料としてだけではなく、発電に利用できるようになれば意味のあることではないでしょうか。廃食用油のリサイクル活動を活発化させ、温暖化防止活動を更に発展させるうえでも実現させたいところではあります。廃食用油のリサイクル活動とBDFの活用につき、今後も皆様の注視をお願いします。

(ごみ部会長 山田 一朗)

自然環境部会

背中を押されてできること

「グリーンニュース」の記事にはそぐわないお話とは存じますが、私事で恐縮ですが、私はいつも感謝している事があります。それは、「宮崎さんががんばっているね」と背中を押してくれる仲間の温もりに励まされているからです。

そんな私の最近の活動

1/26 群馬県環境森林部自然環境課主催 「外来生物研修会」 富岡市の群馬自然史博物館にて、

環境アドバイザー20名余り、全体で80名余り参加

1/29 環境アドバイザー自然環境部会、17名参加。前橋プラザ元気21にて

2/9,2/16,2/23 群馬県主催 「東国歴史文化研修会」参加中

2/15 前橋市ボランティア活動発表会(ペポ祭)準備

2/16 前橋市ボランティア発表会参加(自然環境部会員)

上記活動を含め、表記の励ましのおかげにて無事に終了することが出来ました。

“大変ありがとう”

(自然環境部会長 宮崎 亮二)



「オオブタクサ」

専門部会より

温暖化・エネルギー部会

【ドイツの太陽光発電は「失敗」どころか、「大成功」】

一部には、買い取り制度の「失敗」とか、成長の「失速」などと批判する声があるが的外れ。

2012年5月25～26日の2日間、史上最高の発電量を記録し一時はドイツの全電力需要の半分近くを太陽光発電が供給した。

年間導入量でも記録を更新しつつある。2010年に740万kW、2011年に750万kWの太陽光発電を新規に導入。2012年には「失速」どころか、最初の10カ月で680万kWを設置しており、通年では昨年を上回る可能性が高まった。

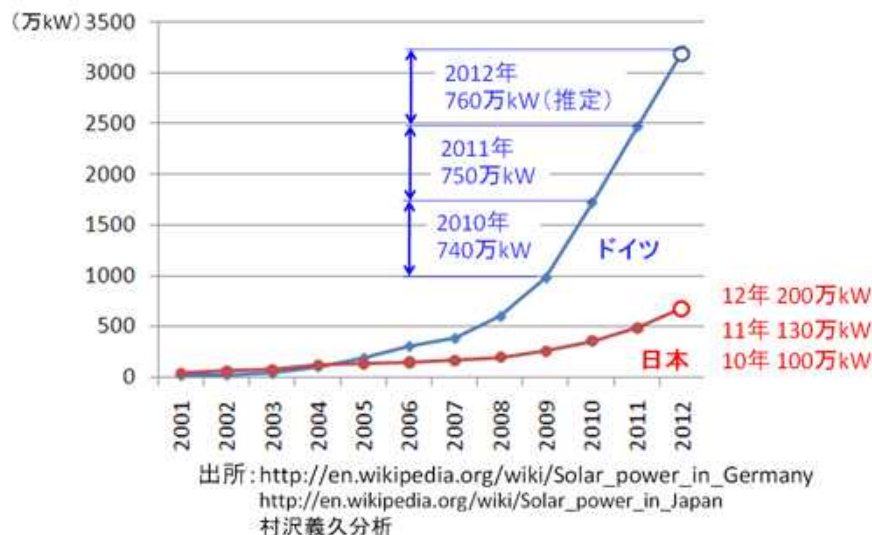
確かに、ドイツの太陽光発電に問題がない訳ではない。高値買い取り制度による家計への負担が2011年に月額1000円を超えた。しかし、これは「想定」されたことであり、予定通りに修正している。

買い取り価格はすでに段階的に引き下げられている。例えば、容量1MW以上のメガソーラーについては、2012年時点ですでに日本円換算で10数円に下がっている。

さらに、太陽光発電の累積設備容量が5200万kWに達した後は買い取りを中止することを議会で決定している。

計画通りに行けば、「コストが高い間は支援し、コスト競争力がついた時点で支援を打ち切る」という理想的な展開になる。

太陽光発電設置容量推移2001-2012 ドイツvs.日本
ドイツは年間原発7～8基分増設し続けている



※読売新聞より

メガソーラーの主な建設計画

場所(容量)	事業者	建設時期	備考
岡山県瀬戸内市 (25万kW)	日本IBM, NTT 西日本など7社	2016年 春	東洋一といわれた規模の畑田の跡地を活用
大分県 (18万1850kW)	丸紅	2014年 4月	石油コンビナート予定地を活用
愛知県田原市 (7万7000kW)	三菱商事, シーエック	2014 年途中	露実半島の三河湾に面する国有地に建設
愛知県田原市 (5万kW)	三井化学, 三井物産など7社	2014年 10月	6000kWの風力発電所も併設
三重県, 愛知県 (4万8700kW)	丸紅(候補)	2014年 10月	三重, 愛知県が事業者を公募
鳥取県米子市 (4万2900kW)	SBエナジー, 三井物産	2013年 秋	中海に面した工業団地を活用
兵庫県淡路市 (3万~4万kW)	ユーラスエナジー ホールディングス	2013 年途中	関西国際空港の土砂採取地などを活用
北海道苫小牧市 (2万3000kW)	三井不動産	2013 年途中	民間所有の遊休地を三井不動産が借りて建設
川崎市 (1万3000kW)	東京電力	稼働中	国内最大のメガソーラー。2011年12月に稼働

(温暖化・エネルギー部会長 田口 勇夫)

取材記事

鼻高展望花の丘の紹介

ここを管理している「NPO法人鼻高町をきれいにする会」の戸塚実 理事長に話を伺いました。

この地は昭和後期から養蚕業の衰退と共に桑畑は放置され伸び放題の桑や笹藪に覆われ、ゴミの不法投棄などで荒廃していました。

観光地として開発して客を招き、またその作業過程を通じて内外の人々の交流の場を提供する等を目的として平成13年3月地元の有志で「鼻高町をきれいにする会」を結成し大規模な環境改善に乗り出しました。桑の抜根、整地をして花の種を撒き、秋には「第一回コスモス祭り」を開催するに至り、そのあと今度は菜種を撒き、バレイショや蕎麦、ひまわり（以上全て農産物・農地扱いなので）を植付け、翌年春には「菜の花祭り」が開催して現在に至っています。

その後平成19年5月にNPO法人化し、現在83名の会員で約4ヘクタールを管理していますが中には前橋・藤岡といった遠方から通っているメンバーもいるとか。

特に菜種（キザキノナタネ使用）に関しては「種蒔ー植付けー開花ー収穫ー搾油」といった一連の過程だけでなく食用油として使用した後に廃油を回収してBDF（ディーゼル燃料）として再利用する、と言ったりサイクルの確立を目指しています。年間の菜種の収穫量は約2トン、有機溶剤を用いず昔ながらの機械搾油をする業者に外注してその約1/3量の菜種油を一部小学校の給食に使用し、コスモス祭り等のイベントや農協などの直売所で販売しています。

平成17年の緑化推進運動功労者としての総理大臣賞、平成24年全国花のまちづくり大賞で農林水産大臣賞受賞を始め数多くの表彰を受けているそうです。また最近はJRの「駅から

ハイキング」などのイベントにも取り上げられ、シーズンには首都圏からの観光バスも来るようになりました。

今力を入れているのは、菜種やバレイショ・サツモイモなどの栽培や収穫に地元の小学生に参加してもらい更にこれらを給食の材料として使って貰いこれらに対する理解を深めること、そして廃食用油のリサイクル率を高める事だそうです。

（編集部・田中 和夫 記）



「菜の花祭りが4/13～5/6に開かれます」戸塚 理事長